

社会人野球日本選手権大会改革案について

J A B A 事業委員会

1. 社会人野球日本選手権改革案の柱

- (1) 10月末までにシーズンを終了する。
- (2) その年度のチャンピオンを決する大会である。
- (3) 地域の社会人野球（広く野球競技）の振興を目指す。

2. 改革案導入計画

第一次制度改革により2007年度より施行されている現行方式については、球場（京セラドーム大阪）との調整の問題もあり、概ね3年間は継続することとし、2010年度の日本選手権へ向けて第二次制度改革案を策定する。

◆第35回（2008年）…現行どおり

期 間 11月13日（木）～23日（日）…11日間

チーム数 32チーム（都市対抗・クラブ選手権・J A B A 大会各優勝11、各地区最終予選21）

◆第36回（2009年）

期 間 11月中で調整中（クライマックスシリーズ及び日本シリーズの日程による。）

① 案 11月 5日（木）～15日（日）

② 案 11月13日（金）～23日（月）…23日は祝日

③ 案 11月19日（木）～29日（日）

チーム数 32チーム（現行どおり）

◆第37回（2010年）

2008年度中に第二次制度改革案を策定し、2010年度から施行する。

◆第38回（2011年）～40回（2013年）

第二次制度改革案を検証し、修正案を施す。

3. 中間報告

社会人野球のファイナルトーナメントをさらに盛り上げるため、以下の2案を検討中である。

(1) 第一案

開催期間は可能な限り10月に近づける。（11月上旬開催）

すべての試合を京セラドーム大阪で開催する。大会期間を分割せず連続して行うこととする。また、出場チーム32（チーム総数並びにJ A B A 大会枠など）を含むその他の事項については、本年度の実績を見て、見直し案を検討する。

(2) 第二案（分割開催）

地域振興を図り、かつ、観客動員の促進を図るため、1、2回戦を各地で分散して開催し、かつ、土日祝日と開催する。また、準々決勝以降の試合は、観客の動員促進のための準備の時間をとるため、1、2回戦終了後に一定の期間を空けることとし、京セラドーム大阪で開催する。

4. 課題・問題点

- (1) プロ球団が本拠地としている球場は、クライマックスシリーズや日本シリーズ開催のため、10月中に開催するための調整が難しい。
- (2) 国際大会の開催時期の決定が遅く、期間の重複を避けるなどの対策が立て難い。
- (3) 京セラドーム大阪における観客動員数が伸びていない。また、器が大きいため数千人の動員では空席が目立つ印象を受ける。
- (4) 日本選手権の対象としていないJABA大会へ出場を希望するチームが減少している。
- (5) 京セラドーム大阪への地下鉄が完成する2009年度以降の観客動員に期待することができる。